

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 元年 6 月 13 日現在

機関番号：34428

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K02669

研究課題名(和文) JFL環境の中等日本語教育における教師間協働の研究

研究課題名(英文) A study on collaborative language teaching in Japanese language education at secondary schools outside Japan

研究代表者

門脇 薫 (Kadowaki, Kaoru)

摂南大学・外国語学部・教授

研究者番号：40346581

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、海外の外国語としての日本語(JFL)教育における、現地の日本語非母語話者教師と日本語母語話者教師の協働に関する研究である。前回の科研費プロジェクト(2012-2014)では、タイと韓国の中高等教育を対象にしたが、今回はインドネシアとオーストラリアをフィールドに教師間協働について調査を行った。その結果、教師間協働の現状と問題点、よりよい協働のために必要となる点が明らかになった。また、オーストラリアのバイリンガル・イマージョンプログラムを持つ小・中学校では、これまで調査を行った国にはない教師間協働の事例が見られた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

「教師の協働による言語教育(collaborative language teaching)」をテーマにしており、非常に重要で今後発展が望まれるにもかかわらず研究が進められてこなかった日本語非母語話者教師と母語話者教師の協働について考察している。現在「日本人教師中心」「日本国内偏重」の日本語教育において、JFL環境の日本語教育に関する本研究は、海外の日本語教育を知るデータとなる。また、国内の日本語教師養成及び海外の非母語話者教師を対象にした教師研修においても、よりよい授業のための研究資料となりうる。

研究成果の概要(英文)： This is a study on collaborative language teaching between non-native Japanese speaker teachers and native Japanese speaker teachers in Japanese language education outside Japan. The former research project (2012-2014) focused on Japanese language education at secondary high schools in Thailand and South Korea. This study was conducted on collaborative language teaching in Indonesia and Australia.

The findings from the research in Indonesia and Australia present current conditions and challenges on collaborative language teaching and important points for successful collaboration between native and non-native Japanese speaker teachers. Furthermore, the study identified that there is a different type of collaboration in Australia, which is not practiced in the other three countries.

研究分野：日本語教育

キーワード：協働 母語話者教師 非母語話者教師 中高等教育 オーストラリア インドネシア

## 1. 研究開始当初の背景

(1)海外の JFL (Japanese as a Foreign language) 環境における中等教育の日本語教育においては、現地の教員資格を持つ日本語非母語話者教師 (NNT) が指導の中心となるが、最近では日本語母語話者教師 (NT) が NNT と共に教えるようになってきた。このような教育現場では、NNT と NT が共に働き成長し合う教師間協働が必然的であると考えられる。

しかし、日本語教育においては「学習者間」の協働研究及び協働実践は行われているが、教師間協働に関する研究は、非常に限られている。特に、この数年間で東南アジアを中心に中等教育の学習者が急増しており、指導にあたる NT も増加している。したがって、ますます NNT と NT の協働が求められるため、教師間協働の研究は喫緊の研究課題であった。

(2)これまでの教師間協働の研究 (H24-26 年度 基盤研究 (C)「海外における日本語非母語話者教師と母語話者教師の協働に関する基礎研究」代表：門脇薫)では、特に NT の数が多い韓国とタイの高校に焦点をあて、教師間協働の実態を知るべく、文献調査及び NT/NNT の双方を対象に質問紙調査及び聞き取り調査を実施した。

本研究では、長年日本語母語話者と NNT のチームティーチング (TT) の実績があるオーストラリア、また中等教育の学習者数が多いインドネシアを研究対象とし、引き続き教師間協働に関する研究を行うこととした。

## 2. 研究の目的

海外の JFL (Japanese as a Foreign language) 環境にある中等教育の日本語教育において、日本語非母語話者教師 (NNT) と母語話者教師 (NT) の教師間協働のより一層の充実化を図るために、特に英語圏の国で、これまで NNT と日本語母語話者との TT の実践を行ってきたオーストラリアと、最近中等教育の学習者数が急増し、今後急速に教師間協働が発展するであろうインドネシアを対象とし、教師間協働の実態を調査し、よりよい教師間協働の方法論について考察する。

## 3. 研究の方法

### (1)文献収集・資料収集

海外の初等・中等教育における日本語教育、教育政策、外国語教育政策等について、文献及び資料収集

### (2)教師間協働に関する先行研究

外国語教育における教師間協働、チームティーチング、母語話者教師・非母語話者教師、Native-speakerism に関する先行研究

### (3)海外調査

オーストラリアとインドネシアの日本語教育における教師間協働に関する調査

オーストラリア・インドネシアの中等教育における TT の調査

オーストラリアの初等・中等教育における教師間協働に関する調査

学校訪問、授業観察、NNT/NT を対象に聞き取り調査

## 4. 研究成果

### (1)研究経過

平成 27 年度から 30 年度の 4 年間にわたり、文献収集・資料収集・海外調査・研究成果発表等の一連の研究活動を行った。

1 年目には、海外の中等教育における日本語教育の資料収集、及び教師間協働に関する先行研究を行った。また、オーストラリアの中等教育機関を訪問し情報収集を行い、予備調査を実施した。2 年目も、引き続き海外の中等教育における日本語教育の情報・資料収集を行い、収集したデータの整理・分析を行った。更にインドネシアでの中等教育機関において調査を実施した。3 年目も引き続き、収集したデータの整理・分析を行った。

研究を開始した当初は 3 年間の研究期間であったが、1 年延長し 4 年目にもオーストラリアで調査を実施した。3 年目にオーストラリアでの調査実施のための手続きが遅れたこと、また研究代表者の門脇が長期研究出張でオーストラリアに 1 年滞在することになり、より広く研究

することが可能になったことによるものである。最終年度はこれまでの調査のデータ分析を引き続き行い、それぞれの研究成果を国内及び海外における学会やシンポジウム等で発表し、論文にまとめた。

## (2) 教師間協働の段階

国際交流基金の「2012年海外日本語教育機関調査」によると、JFL環境にある日本以外の国や地域で日本語を学習する学習者数は約398.6万人である。これらの学習者の多くは中等教育で学ぶ学習者で全体の52.1%を占めており、日本国外の日本語教育において重要な位置づけにある。全学習者数のうち中等教育の学習者数が多い国は、順にインドネシア・韓国・オーストラリア・台湾・タイである。全学習者数のうち中等教育の学習者数の割合は、台湾(36.5%)よりタイ(68.1%)の方が高い。これらの国の中等教育における日本語教育では、現地の教員資格を持ったNNTが指導の中心となるが、日本語母語話者がNNTと共に授業に入りティームティーチング(TT)が行われるようになった。前回の科研費プロジェクトでは、タイと韓国を研究対象にしたが、今回の科研プロジェクトでは、オーストラリアとインドネシアを対象にした。このようなNNTとNTの協働は、最近になってTTが盛んに行われるようになったインドネシア、TTの実績が長いオーストラリアのように、国によって教師間協働の段階があることがわかった(門脇 2016)。

## (3) オーストラリアのバイリンガル・イマージョンプログラムにおける教師間協働

オーストラリアの日本語教育では、中等教育に加え初等教育における学習者数が多い。第2外国語として日本語が教えられているが、日本語と英語のバイリンガル・イマージョンプログラムを持つ初等・中等教育機関がある。このような小学校及び中学・高校では、ある特定の科目を日本語で教えるCLIL(Content and Language Integrated Learning: 内容言語統語型学習)の手法が使われており、科目を担当するNNTと言語(日本語)を担当するNTが協働で指導にあたっていることがわかった。このような教師間協働の事例は、他の国では見られない新しいタイプの教師間協働だと言える。

このようなバイリンガル・イマージョンプログラムを持つ複数の小学校、中学・高校で調査を行った結果、NNT及びNTの役割、協働の実状、よりよい協働のために必要な点が明らかになった(Kadowaki 2018c, 金・門脇 2018)

## (4) インドネシア・オーストラリアの中等教育における協働

前回の科研費プロジェクトでタイと韓国の中等教育で実施した調査と同様に、インドネシア・オーストラリアの中等教育においてNNTとアシスタントとしてのNTによる協働に関する調査を行った。このような学校では、NNTとNTが二人一緒に授業に入りTTをしている。両国での調査の結果、TTによる協働におけるNNTとNTの役割、またTTを実施していく上での問題点及びよりよい協働のために必要な点が明らかになった(Kadowaki 2018a, Kadowaki 2018b)。

(5) 本研究におけるオーストラリア及びインドネシアでの調査によって得られた知見は、他の国の中等教育の日本語教育において応用することが可能である。

## 5. 主な発表論文等

### [雑誌論文](計3件)

Kadowaki, K. The Roles of Native Japanese Speaker Teachers in Japanese Language Programmes. *Japanese Language and Soft Power in Asia*. 2018a, pp.123 – 139, Palgrave.

Kadowaki, K. Japanese Native Speaker Teachers at High Schools in South Korea and Thailand. *Towards Post-Native-Speakerism: Dynamics and Shifts*. 2018b, pp97 – 112, Springer.

門脇 薫, JFL 環境の高校における日本語非母語話者教師と母語話者教師の教師間協働の段階、ヨーロッパ日本語教育、21号、2017、207-212 (査読有)  
(<https://www.eaje.eu/pdfdownload/pdfdownload.php?index=224-229&filename=koto-kadowaki.pdf&p=venezia>)

〔学会発表〕(計6件)

金 孝卿・門脇 薫、オーストラリアのバイリンガル教育の現場における教師間協働への一考察 日本語科目と教科担当の教師の役割と内省に注目して、第12回国際日本語教育及び日本研究シンポジウム第12回国際日本語教育及び日本研究シンポジウム(2018.12.8、香港)

Kadowaki, K. Collaborative Language Teaching in Japanese Language Education at Primary and secondary schools in Australia. National Symposium Japanese Language Education. (Nov.2 2018c, Sydney, Australia)

(<https://nsjle.org.au/nsjle/media/NSJLE-2018-Abstracts-and-bios.pdf>)

Kadowaki, K. The role of Japanese native speaker teacher at high schools in South Korea, Thailand and Indonesia. The 10th International Convention of Asia Scholars (July22 2017, Chiang Mai, Thailand)

Kadowaki, K. Japanese Language Education and a Program Sponsored by the Japanese Government. 21ST AFMLTA International Language Conference (July7 2017, Gold Coast, Australia)

門脇 薫、JFL 環境の高校における日本語非母語話者教師と母語話者教師の教師間協働の段階、ヨーロッパ日本語教師会シンポジウム(2016.7.7、イタリア、ヴェネチア)

Kadowaki, K. Promotion of Japanese Language as Soft power in Asia: Dispatch Japanese Native Speaker teachers program. The 9th International Convention of Asia Scholars (July 6 2015, Adelaide, Australia)

## 6 . 研究組織

### (1)研究分担者

研究分担者氏名：金 孝卿

ローマ字氏名：KIM, Hyogyung

所属研究機関名：早稲田大学

部局名：日本語教育研究センター

職名：准教授

研究者番号(8桁)：30467063

### (2)研究協力者氏名：橋本 佳代子

ローマ字氏名：HASHIMOTO, Kayoko)

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。